

みのわ未来委員会（第4回）会議要録

日 時：平成27年7月16日(木) 13時～15時20分

会 場：箕輪町役場 3階 講堂

参 加 者：みのわ未来委員会委員（欠席者なし）

町長・副町長・事務局（企画振興課）

傍聴人数：5人

報道機関：みのわ新聞・伊那ケーブルテレビ

1. 開会

2. 挨拶

町長)

現在1か月ほどをかけ、保育園の保護者と話をしている。結果は次回報告したい。保護者からは、経済的な負担はもちろん、保育環境全体の向上をして欲しいとの話を大変多く受けた。

上伊那地域戦略会議が行われ、現段階における県の考え方や人口推計が提示された。社人研の推計の168万人から10万から20万人増の人口推計となっている。県の人口推計そのものが町につながるわけではないが、参考にはしないといけないし、県の重点項目が明らかになったので、それらと町がどのように整合を図るのか、今後調整をしていきたい。地方創生に関わる一定のものは8月の段階で作らざるを得ない。

浦野会長)

本日の議事は第4次振興計画の基本構想と人口ビジョンを具体的に協議し、未来委員会として形にする。

3. 報告事項

(1) 専門部会の検討状況について（資料1）

※資料をもとに事務局より説明

※各委員から特に補足なし

4. 議事

※事務局より前回の議事内容を報告。第2回議事録を公表することを承諾。

(1) 第5次振興計画 人口の目標設定について (資料2)

※資料をもとに事務局より説明

【2025年の目標人口】「24,800人」

浦野会長)

○今日現在、25,000人程の人口であるが、現在より10年後には700人余減る。2025年にこの数字をキープするには大変難しい課題がある。出生率を増やす必要があるが、現在は上伊那で最低となっている。今後上伊那で上位、またさらに上を目指すことが必要。また、転入者を10年間で500人近く増やすことが必要。隣の南箕輪村は増えている現実があり、辰野町では大幅に減少している。どんな原因があるか議論になった経過もあるが、行政だけでなく、我々町民も相当強い意志をもって取り組んでいく必要がある課題。

金沢委員)

○人口は目標数字だけでは、息苦しくなってしまう。視点を変えることが必要ではないかということをお前は話した。24,800人という人口については、努力目標で良いと思う。

高田委員)

○人口の目標値を細かく設定しているが、不確実性の高い人口目標は設定しない方が良いのではないかと。また、具体的な生活と結びつく関連性がわからないと、そのよし悪しは判断できない。少ないよりは多いほうが良いと考えがちだが、それでは無責任な意見になってしまうので、そのような数字が及ぼす影響がわかると良い。
→24,800人が24,700人になった場合、たとえば、水道料の利用が100人減るとか、子どもの数が減ると、学校等施設の在り方なども考えていかないといけない。
行政としては、人口推計は今後のまちづくりに対して、目標を定め将来的な計画を立てるために必要。

浦野会長)

○住民としては、人口減少の影響が自分達の生活に具体的にどのように関わるのか知りたいところ。全部ではなくても、主要項目について今から予測できるものもあるので、しっかり整理して町民に知らせ、チャレンジによってマイナスを消すために頑張りたいと提示できるようにすべき。

小池委員)

○今の議論は非常に重要。例えば40年後人口が減り、税収が減ることによってどのような影響があるのか、固定費もある中で財政がどのようになるのか、町民全員にも、耳触りは悪いかもしれないが知らせる必要がある。どのような不都合があるか知ることが計画実現するためには重要である。

また、町民にチャレンジの必要性が共有できれば、町民は全員セールスマンになる。親族も友達も県外に居て、その方々を地元呼び戻す営業マンとなる。起承転結の起の部分で町民が納得し、将来的な不都合を認識していないと計画倒れになってしまう。先ほどの指摘は全く同感である。

高田委員)

○今の話を伺って、自分として納得できた。

「一番起こりうるのは、資料の一番下の実線の推計」ということで減少する傾向にあるということを詳らかに説明する。

その上でだが、「施策によってチャレンジ1まで上げられる可能性がある」ということを示していく。そのために、出生率を上げ、若者のIターンUターンで700人くらいの人口を今後25年で自分たちの手で増やしていく、という位置づけで良いのではないか。

浦野会長)

○前回会議では人口目標は、減少や維持ではなく、増を目指すべきとの意見もあったがどのように考えているか。

柴委員)

○前回は、数値的な事にこだわって発言したが、数字よりも本質的なことで考えることが大切だと思う。内容や仕組みが分かることで理解し考えることが出来る。人口にしても起こりうる影響などを提示して、みんながどうしたいか確認することが大切。

浦野会長)

○落ちるところまで落ちないと本気になった施策ができない場合もある。例えば大分県豊後高田市では5分の1に人口が減り、市内の学校の学力も県内で最低となってしまった後、本気になって施策を考え、現在は県内で一番の学力を身に付けた事例がある。ただ、落ちるところまで落ちてからでは遅いので、今しっかりした施策を打てば良い方向に向くのではないか。

馬場委員)

○目標を設定したのであれば、施策の重点化などにつなげて達成することが重要。今後

は、目標人口を設定をしたことによって、まちづくりの重点をどこに置くかを考えることが重要である。

浦野会長)

○確かに、どのように解決するかがこれからの議題。目標を達成するための施策をどうするのか。今後専門部会や本会の中で議論し、提案していく。

山本委員)

○出生率を上げるのに、事例として1人産むと10万円、2人産むと20万円などの施策を実施している自治体があり爆発的な人口増につながっている例もあるが、将来を見通した時に現実的とは思えず、箕輪町に相応しいとも思えない。また、景気動向等社会情勢の影響で達成されていないことがあるので、人口増減についてはあまり考えても仕方ない。町を選ぶときに目先のことよりも将来的なことを考えて選ぶ方も多いので、そのような方に選ばれるまちづくりが重要。

和田委員)

○24,800人という目標は、消極的ではなく、意欲的な数値だと思う。同時に、町民が一体となって様々な取り組みをしないと達成困難な数字と感じる。
気になる点として、4ページの「結婚への誘導」という点。誘導という言葉は施策として強すぎると感じる。行政が使う言葉としては、「結婚する環境整備」くらいの表現が良いのではないかと。

吉村委員)

○高田委員から、細かい目標人口は設定しない方が良いのではないかと意見があったが、目標は定めた方が良いと考える。例えば、外食チェーンの出店等を例にとると、一定の人口規模が期待できないと撤退する可能性がある。すると雇用の場がなくなり規模の縮小が加速的に進むことを引き起こしかねない。規模を維持する施策を行わないと縮小が加速する危険性があると感じるし、そうした目標や計画を立て示すことは重要だと考える。

転入の増を考えるとき、対象者が生活の糧を何に求めているかを考慮することが重要だと考える。年齢によって、またはその状況によって町を選ぶ理由は違う。たとえば65歳以下は収入という切り口で考えることが必要ではないか。高齢者は収入とは別の理由で町を選ぶこともあり得る。

原委員)

○人口はある程度目標設定することは必要。しかし細かい数字を作れば作るほど、経験

上、皆さんの心には響きづらい、というジレンマがある。必要な部分はあるが、町民が主体となって動くときに細かい数字よりは、前向きな姿勢のほうが大切。数字ではイメージしづらい。明確に分る内容の方が、皆さんにも分ってもらえる。

辻委員)

○目標人口はこれで良いと思う。ただし、総数だけでは目標が達成可能な数字か、無理な数字かどうか想像つかない。具体的な施策をもとにして「転入者目標」を定め、内容と共に詳しく発信すると良いのではないかな。

高橋委員)

○転入者が10年間で480人必要ということだが。転入した方がずっと箕輪町に住み続けると仮定した目標設定になっているが、実際には、転入しても数年で転出してしまいうこともある。そういった意味でも、難しい目標設定と言える。目標値を下げてても良いのでは。また、出生率が下がるのは現代病でもある。出生率1.8という数値も容易なものではない。自分も今子どもが1人だが、もう1人は難しい。施策を考えると、働く場が箕輪町でなくても、近隣市町村に働く場があれば良いのではないかな。また、女性目線では働く場があることよりも、暮らしやすさの方が大切。たとえば子どもが病気になった時は先に医療費を払い、後で戻ってくるが、予防接種は高額のため、先払いは大変。支払いなど仕組みとして経済的に楽な方法を工夫するなど、住みやすければ、女性が結婚して出産するときにも町を選ぶ理由にもなる。そういったことを施策を中心に据えていけば、24,800人を超えることもできるのではないだろうか。今のままでは難しい。

佐々木委員)

○実現性を踏まえた数字とするのは大事。目標を立てることも大事。人口減により影響がどうなるかを示すことが必要。具体的なことを示して皆さんに知らせることも必要。出生率1.8も大変な数字で、女性の晩婚化や出産年齢の高齢化などもあり高いハードルとを感じる。

小島委員)

○目標数値は正直どうでも良い。それより、町内でみのわ未来委員会や振興計画について知らない人が多すぎる。せっかく知恵のある方が集まって素晴らしい議論をしているのに、知らないのはもったいない。計画が実現するかどうかは、目標が高いか低いかではなく、町民が計画の事を理解して取り組めるかどうかだと思う。町民全員がセールスマンをキャッチフレーズにしても良い。町民が箕輪を好きになって、みんなが町に人を連れてくればよい。町民が町を好きになれば良い。そうしたら、目標人口も

達成できると思う。

内堀委員)

○今後は、この目標人口を基に各部会で施策を考えていくのだと思うが、例えば「若年者30人増やす」という目標を立てた場合と「若者を100人増やす」という目標を立てた場合でも、どちらでも施策的にはあまり変わらないのではないだろうか。そう考えると、目標人口をどの程度にするかというのはあまり意味がないのかなと思う。例え立てた目標が達成できなくても、暮らしやすいまちづくりを進めて、町民が住みやすいと感じられるようになれば、人口は自然と増えると思う。

東委員)

○みんながセールスマンで、町が好きで活動が出来れば人が集まるのでは、ということに感銘を受けた。自分もやりたいと思える。転出を止めないと減少は止まらない。セールスマンとして人を呼びこむと同時に、今住んでいる人が今後も住み続けていけるように周りの人が支え合うことが大切。目標数値を住民にも伝え、理解してもらうことが大切。

浦野会長)

○目標設定することも大事なので、具体的な数値を目標とする。様々な意見が出たが、24,800人を未来委員会の今日現在の目標数値としたい。

(2) 基本構想(案)について (資料3)

※資料をもとに事務局より説明

【基本構想案】

**「みんなで創る、未来につなぐ、暮らしやすい箕輪町
～人口減少する新たな未来への挑戦・箕輪チャレンジ～」**

*見え消し部は前回案からの修正。下線部は前回案からの追加。

※唐澤委員作成資料について唐澤委員より説明 (唐澤委員作成資料)

※町長作成資料「がんばってる箕輪町」について事務局より紹介 (がんばってる箕輪町)

高田委員)

○この文章は、ビジョンなのか、キャッチフレーズなのか、その位置づけについて当初は疑問があった。ビジョンとは乗り越えるべき課題を踏まえた戦略の土台であるので、ビジョンであれば作り直すことが必要と思われるが、キャッチフレーズということであれば、町民みんなが前に向いて頑張ろうということで、これで良いのではないかと

思う。

浦野会長)

- 事務局はキャッチフレーズという認識で良いか。
- そう考えている。

浦野会長)

- 前回案から「人口減少」を削ったのは、意見があるのか。
- 人口減少への挑戦とすると、「人口減少するように挑戦する」と受け取られ、誤解される可能性もあり削除した。

浦野会長)

- しかし、「人口減少」が入っていた方が、今の時代の変化が理解できるのではないか。

唐沢委員)

- 町民全員がセールスマンになるためには、わが町の良いところが何かということを理解することが大切なので、もっと宣伝できる内容として再検討した方が良いのでは。

高田委員)

- 今の会長の発言の通り、たとえマイナスイメージだとしても、「人口減少」といったようなパンチのきいた言葉を入れ、これから10年を迎える皆の気持ちを一つにすることが必要ではないか。例えば「人口減少のある新たな時代への挑戦」など。

浦野会長)

- ここで決められそうにない。キャッチフレーズの決定については次回委員会でも良いか。
- 来週から始まる第3回専門部会には、本日決まった目標人口について報告し、基本構想のキャッチフレーズ部分については次回委員会に持ち越す。8月の中間報告会にはキャッチフレーズも含めて町民の皆さんに示すつもり。

唐沢委員)

- 資料3の2(3)について、事業の選択と集中と書かれているが、現在は非常に厳しい時代であるので、事業の廃止と集中もある。

小池委員)

- 資料3の課題について。少子高齢化の中で、財源をどうするかが問題。地方自治の足

元に視点を置いて損益分岐点を明確にすることも必要では。

全国で地方創生を実施する中で、国の財政も悪化が予測されるため支援は期待できない。町民本意で足元を見つめて考えることが重要。上から目線ではなく、優先順位もつけて。そのため、この未来委員会は責任ある立場。人口問題も町民全員がその気になればと。

5. その他

(1) 中間報告会について

※資料をもとに事務局より説明（資料4）

【中間報告会】

8月22日（土）午後2時～午後4時15分

(2) まち・ひと・しごと創生総合戦略について

※資料をもとに事務局より説明（資料5）

(3) 次回の開催予定について

※事務局より開催日程案を提示

【次回開催予定】

8月20日（木）午後1時より 役場講堂

- ・キャッチフレーズについて
- ・人口ビジョンの素案について
- ・産業関係者と意見交換会について

6. 閉会